

外国からの幼児教育者の視察を受けて

2015年6月9日（火曜日）

Prof.D Benjamin Mardell

レズリー大学教育学大学院幼児教育科のベン・マーデル教授が本園の幼児教育を視察されました。ベン・マーデル教授は、ハーバード大学教育学大学院で行われたプロジェクト・ゼロで【Learning Visible（学びの可視化）】を研究をされていました。

当日は各クラスや園庭での保育を視察され、その後園長はじめ教員との意見交換が行われました。

ベン・マーデル先生から、「板橋富士見幼稚園はとても自然があり、その中で子ども達が生き生きと主体的に遊びに関わっている姿を観て、とても民主的（幼児の自由な思いを十分に発揮出来る環境）である」と語られておりました。

「どの子どもも、1人で遊んでいる子がいないのは何故か。園庭での子ども達の動きについて、どのように対応しているのか」という質問があり、1人1人を繋ぐ関わりを大切にしていることや、子どもの動きに合わせてプランターなどで仕切りするなど、子どもの動き（動線）に合わせた環境作りをしていることを伝えると至極感心され、保育の細やかな対応に高い評価を寄せられていました。

幼稚園視察後は、東京大学教育学研究科で大学院生に講演し、帰国されました。





2015年6月15日（月曜日）
Prof.D Gilles P treault
フランス教育省の幼児教育視学官

兵庫教育大学の先生から本園の視察依頼があり、6月15日10時に成田に到着されたフランス教育省の幼児教育視学官の方が、北区滝野川にあるフランス学園の幼児教育科の校長先生と一緒に、直接幼稚園に来園されました。

視学官の Gilles P treault 先生は、フランス国家としてフランス学園を視察指導に来られたとのこと。その関係から本園に立ち寄りご覧頂く機会となりました。

丁度園庭での遊びの時間で、子ども達が様々な遊びを展開している場をご覧になり、子ども達が杏を収穫して食べている姿に、ご自分も食べて「美味しい」と喜ばれておりました。本園の自然の中での教育に大いに感銘され、ツリ - ハウスから子ども達の姿や、穴掘りでの泥んこ遊びをしている姿に興味を持たれ、遊びの違いにお国柄の特色があることを話されておりました。最も興味を持たれたことは、本園の教育課程や年間指導計画・月案・週日案での指導のあり方でした。本園の全ての資料をご覧になり、参考にしたいとのことを持ち帰られました。

毎年幼稚園では、何回か海外からの視察に訪れる先生をお迎えしています。余りご報告する機会がなかったのですが、今年から本園に『幼児教育研究センター』が設置されたことから、公表することに致しました。





